

標茶町・JA標茶町・標茶町高校と協定調印

4月13日、本学は標茶町・標茶町農業協同組合・北海道標茶高校と「地域総合交流に関する協定」を結びました。

本学は、**1.GIS**（地理情報システム）技術の活用や衛星・無人飛行ロボットからのモニタリングによる牧草地の収量増加と品質向上、**2.土壌診断結果データベース作成** **3.エゾシカの農業被害対策や野生動物の生態調査**などを行い、標茶町の産業・文化・生活・観光・教育等の振興と発展について協力します。

標茶町は、本学の環境システム学部・酪農学部の学生を中心とする学生の研修受入等の教育研究推進事業に協力します。調印式は本学で行われ、谷山弘行学長、標茶町の池田裕二町長、標茶町農業協同組合の高取剛組合長、北海道標茶高校の西田丈夫校長が協定書にサインしました。

谷山学長は、「北海道が抱える農業問題に、それぞれの得意な分野を出し合い協力していきたい」と述べ、池田町長は、「標茶が持つ自然環境は標茶だけのものではなく共有する財産。未来を担う子どもたちのためにも、大学の豊富な知恵と知識を生かし、標茶の広大な大地を教育・研究のフィールドとして活用してほしい」と町と大学の発展を願いました。

続いて、高取剛組合長は、「標茶は酪農が中心の町。牛は4万頭おり、3万ヘクタールの草地を所有しているが、草地の管理がうまくいかないなど問題点を抱えている。JAとしては、GISのシステムを活用した草地管理に力を入れていきたい。また、草地や土壌に関する専門知識が得られることは、組合員らの安定にも繋がる」と草地管理の重要性を強調。最後に、本学の卒業生でもある西田丈夫校長（酪農学科1979年卒）は、「本校は総合学科ではあるが、基本には農業教育がある。食料・農業・環境を担う若者の育成に協力し合い、更に連携を深めていきたい」と高大連携に期待を込めました。